

令和8年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第5号（果樹）

令和8年7月16日発表（対象期間：令和8年7月16日～8月上旬）

●PCでアクセス

ひろしま病害虫情報

検索

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報
二次元コードはこちら →



お問い合わせ先
広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
〒739-0151 東広島市八本松町原6869
電話：082-420-9662（直通）

※次回の予報発表は令和8年8月上旬ごろです。

1

果樹全般病害虫について

①果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）	現況	並～やや多	予報	やや多
----------------------	----	-------	----	-----

予報の根拠

(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

●県内におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの累積誘殺数は、7月第2半旬の時点で、各地で並～やや多い結果となっています。
地域差が大きいため、**表1を参考にしてください。**

●今後気温の上昇に伴い、飛来が増加する可能性もあるため、ほ場の定期的な巡回を心がけましょう。

※最新の**フェロモントラップ調査データ**は、ひろしま病害虫情報に公開しますので、防除対策の参考にしてください。



左からチャバネアオカメムシ、
ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ

表1 各調査地点におけるチャバネアオカメムシ累積誘殺数（5月第1半旬～7月第2半旬）

設置地点	チャバネアオカメムシ累積誘殺数（頭）				
	本年	状況	平年 ^{注1)}	多発年 ^{注2)}	多発年以外 ^{注3)}
呉市蒲刈町田戸	137.0	やや多	126.6	384.3	16.1
尾道市瀬戸田町高根	36.1	並	47.1	92.8	27.5
福山市神辺町下竹田	75.5	並	145.6	290.1	83.7
庄原市高野町下門田	183.0	やや多	239.3	732.3	28.1
庄原市東城町内堀	69.0	並	85.3	233.7	21.6
東広島市安芸津町	303.6	並	443.2	904.5	245.5
世羅郡世羅町本郷	294.0	並	214.4	376.6	144.1
三原市大和町大草 ^{注4)}	12.0	-	16.8	-	-
三次市作木町香淀 ^{注4)}	204.5	-	50.3	-	-
世羅郡世羅町京丸 ^{注4)}	341.7	-	195.2	-	-
山県郡北広島町苅谷形 ^{注4)}	4.0	-	1.0	-	-

注1) 各調査地点の平年とは、過去10年の平均を示す。
注2) 多発年とは、平成28年以降で、注意報を発表した年（令和2、4、6年）の平均値を示す。
注3) 多発年以外とは、平成28年以降で、令和2、4、6年を除いた年の平均値を示す。
注4) 令和7年からの調査開始のため、平年には令和7年の誘殺数を記載する。

②チャノキイロアザミウマ成虫発生予測



果梗部のリング状被害

チャノキイロアザミウマ
(体長0.8mm程度)

- チャノキイロアザミウマは、主に防風樹として利用されているイヌマキやサングジュなどが発生源となり、果樹園に飛来します。この虫に果皮を加害されると外観が著しく悪くなります。
- チャノキイロアザミウマは、気温の推移から成虫の発生が多くなる時期（発生ピーク）を予測することが可能です。**防除適期は、発生ピークの7日前からピーク当日**です。

※ 表2を参考に、発生ピーク予測日に合わせた防除を行ってください。

表2 チャノキイロアザミウマ成虫発生ピーク予測日

今後の気温	発生ピーク予測日	
	第4世代	第5世代
平年より高い（+1℃）	7月28日	8月13日
平年並	7月29日	8月15日
平年より低い（-1℃）	7月30日	8月17日

※生口島アメダスデータに基づく

2-（1）

かんきつ病害虫の現況と予報（概要）

病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項
かいよう病 (葉)			●発病した葉や枝は伝染源となりますので、速やかに樹上から除去するとともに基幹防除を徹底しましょう。 ●気象予報に注意し、台風や大雨が予想される場合は、降雨前の予防散布を徹底しましょう。
黒点病 (果実)			●伝染源となる枯枝は速やかに除去し、ほ場から持ち出しましょう。 ●気象予報に注意し、降雨前の予防散布を徹底しましょう。 ●追加防除は、防除後からの累積降雨量が250mmを超えるか、1か月経過したら実施しましょう。
そうか病 (果実)			●一部多発ほ場が確認されています。発病した葉や枝は伝染源となるためほ場から持ち出しましょう。
ミカンハダニ (葉)			●薬剤抵抗性をもった個体の出現を防ぐため、同系統薬剤の連用は避けましょう。 ●8月以降に発生すると、果実品質を損ないますので、基幹防除を徹底しましょう。
ミカンサビダニ (果実)			●被害を確認してからの防除では遅いため、7、8月の基幹防除を徹底しましょう。 ●特に、裾なり、内なりの果実での発生に注意します。
ナシマルカイガラムシ (果実)			●第2世代歩行幼虫の発生が予測される7月下旬に防除を徹底しましょう。

①かいよう病

現況

並

予報

並

予報の根拠

(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

- 巡回調査での新葉の発病葉率は、レモンで2.5%（平年1.7%）、ネーブルで0%（平年1.4%）であり、合計2.0%（平年1.7%）と平年並の発生でした（±）。
- 発生地点率は、レモンで40.9%（平年35.3%）、ネーブルで0%（平年31.1%）であり、合計32.1%（平年34.4%）と平年並の値でした（±）。
- 向こう1か月の降水量は、平年並または少ない確率がともに40%です（-～±）。

【防除上の注意事項】

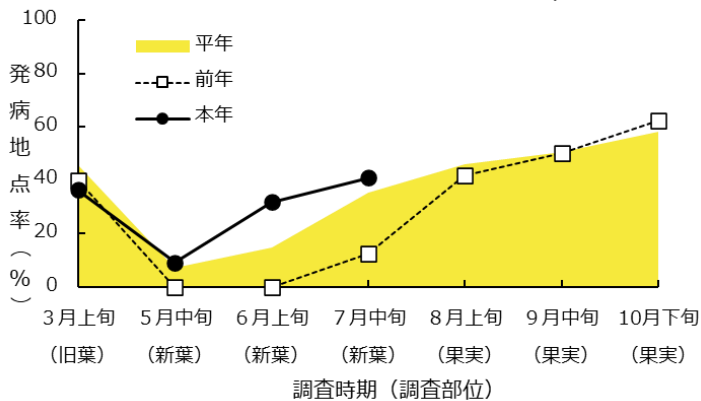
- 発病した葉や枝は伝染源となりますので樹上から除去し、ほ場外に持ち出しましょう。
- 巡回調査では、新葉や果実での発病が見られましたので、速やかに樹上から除去するとともに基幹防除を徹底しましょう。
- 気象予報に注意し、台風や大雨が予想される場合は、降雨前の予防散布を徹底しましょう。
- 銅剤散布に当たっての注意事項
 - ・マンネブ剤、マンゼブ剤は混用せずに散布し、これらの剤の散布間隔は7日以上空けます。
 - ・無機銅剤（コサイドなど）の散布を行う際には、クレフノン（希釈倍数:200倍）を加用します。
 - ・高温時の散布を行うと薬害を生じやすいので注意しましょう。



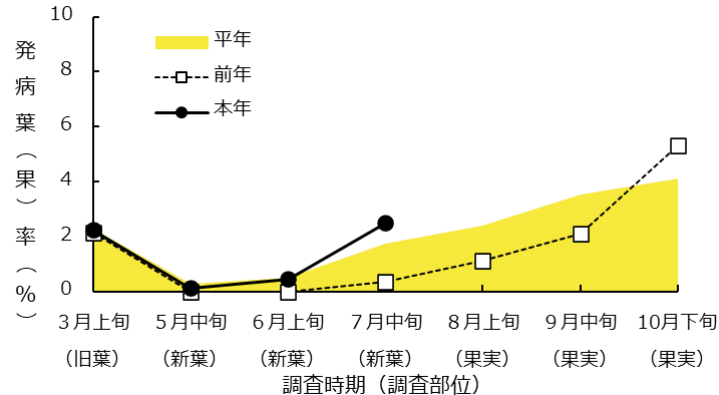
罹病葉

【巡回調査データ】※県内全域まとめ

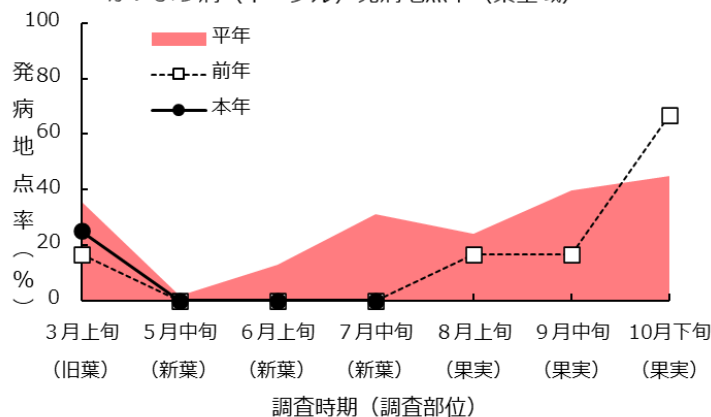
かいよう病（レモン） 発病地点率（県全域）



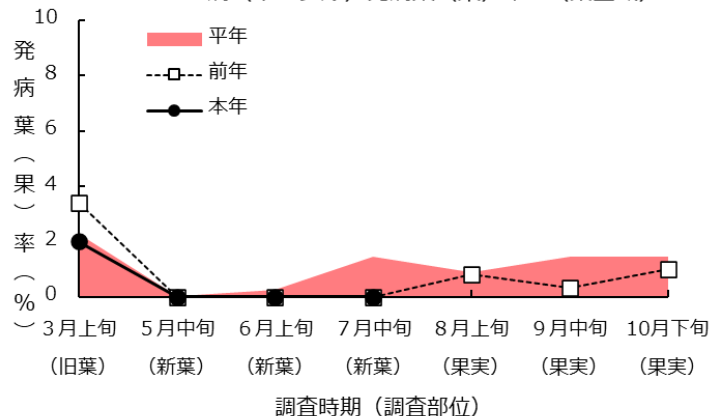
かいよう病（レモン） 発病葉（果）率（県全域）



かいよう病（ネーブル） 発病地点率（県全域）



かいよう病（ネーブル） 発病葉（果）率（県全域）

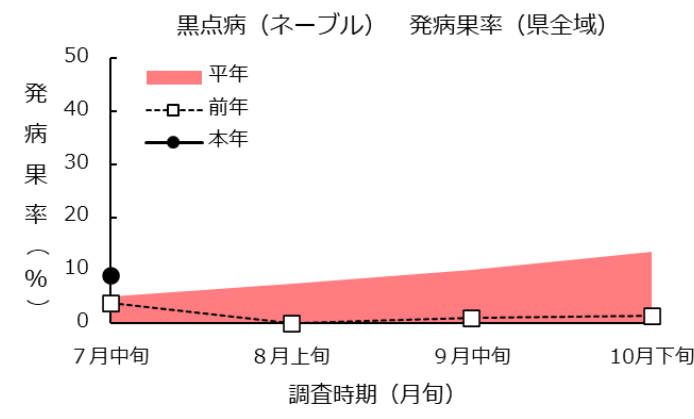
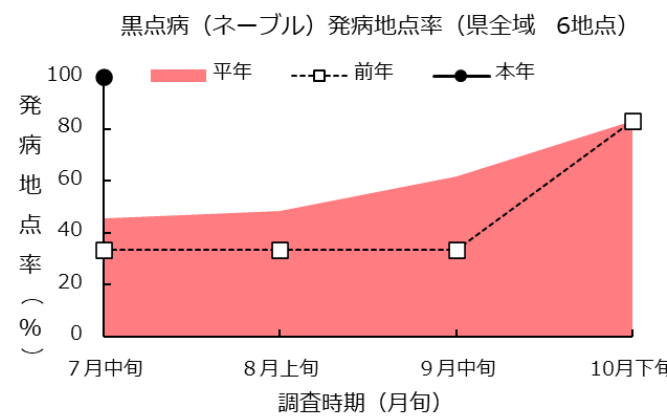
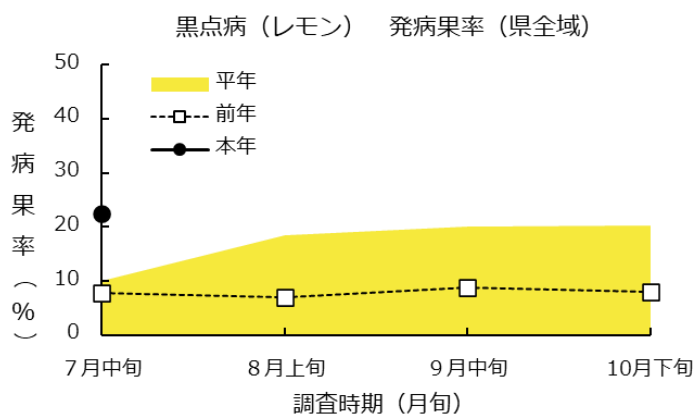
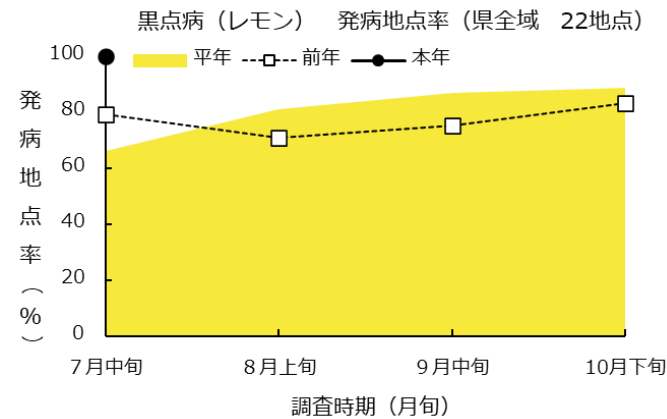
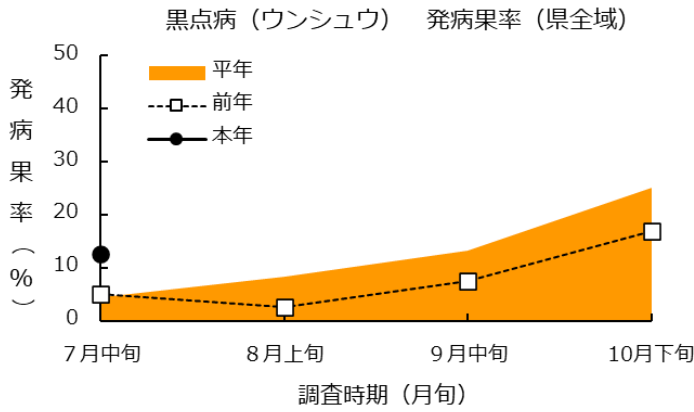
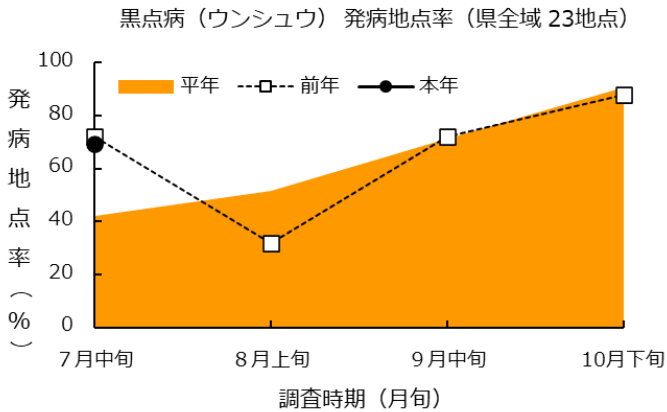


②黒点病	現況	やや多	予報	やや多
予報の根拠 (+) :多発要因 (±) :平年並 (-) :少発要因	●発病果率は、ウンシュウでは12.6%（平年4.5%）、レモンでは22.5%（平年10.1%）、ネーブルでは9.0%（平年5.1%）と平年よりやや多い発生でした（+）。 ●発生地点率は、ウンシュウで69.6%（平年42.0%）、レモンで100%（平年66.0%）、ネーブルで100%（平年45.6%）と平年よりやや多い結果でした（+）。 ●向こう1か月の降水量は、平年並または少ない確率がともに40%です（-～±）。			

【防除上の注意事項】

- 伝染源となる枯枝は速やかに除去し、ほ場から持ち出しましょう。
- 気象予報に注意し、降雨前の予防散布を徹底しましょう。
- 追加防除は、防除後からの累積降雨量が250mmを超えるか、1か月経過したら実施しましょう。

【巡回調査データ】



③ミカンハダニ

現況

やや少

予報

やや少

予報の根拠

- 巡回調査では、発生地点率は30.4%（平年32.3%）、寄生葉率は0.8%（平年2.8%）で、平年よりやや少ない発生でした（-）。
- 向こう1か月の気温は平年より高い確率が60%、降水量は平年より少ない確率が40%です（+）。

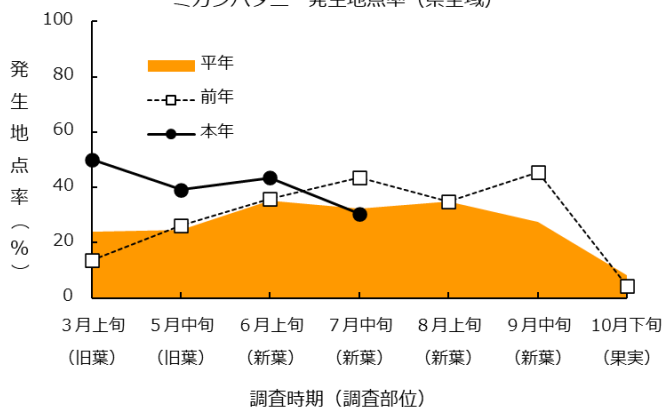
(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

【防除上の注意事項】

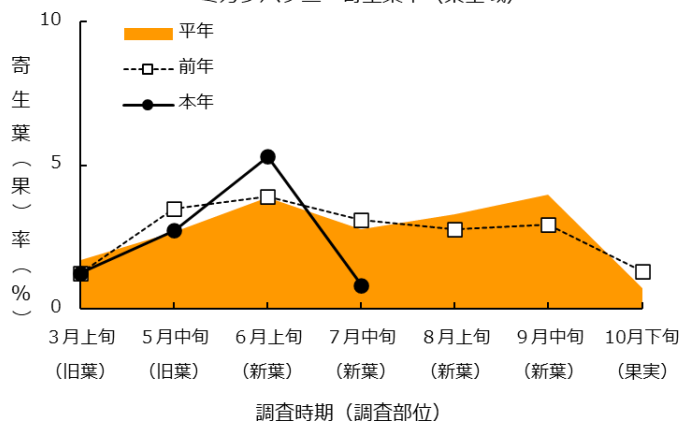
- 薬剤抵抗性をもった個体の出現を防ぐため、同系統薬剤の連用は避けましょう。
- 薬剤は葉裏にもかかるように丁寧に散布しましょう。
- 8月以降に発生すると、果実品質を損ないますので、基幹防除を徹底しましょう。

【巡回調査データ】

ミカンハダニ 発生地点率（県全域）



ミカンハダニ 寄生葉率（県全域）

雌成虫
(体長0.5mm程度)

葉のかすり症状

④ミカンサビダニ

現況

並（発生無）

予報

並

予報の根拠

- 今回の巡回調査では、発生を確認していません（±）。
- 向こう1か月の気温は高い確率が60%（+）、降水量は平年並または少ない確率がともに40%です（±～+）。

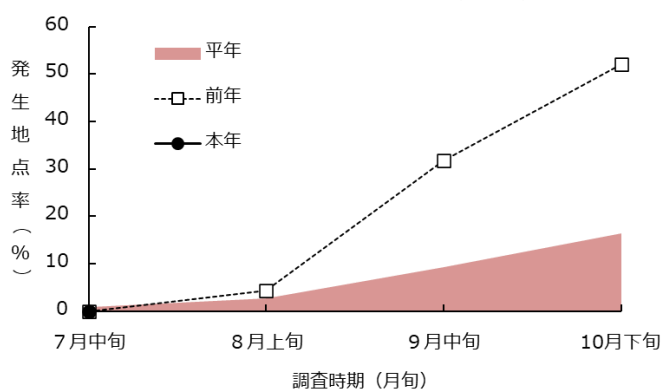
(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

【防除上の注意事項】

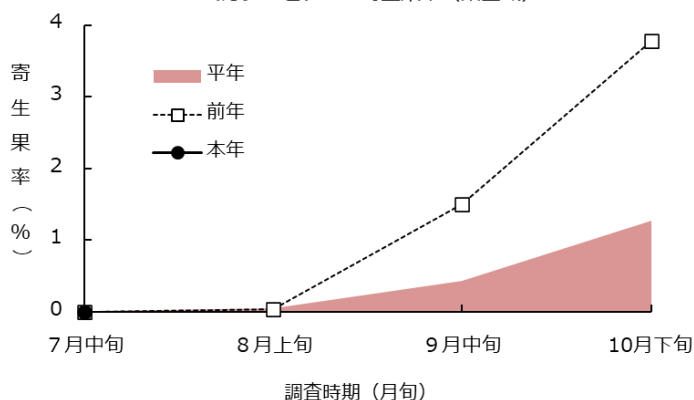
- 調査外で象皮状の被害果が確認されています。被害を確認してから防除では遅いため、7、8月の基幹防除を徹底しましょう。特に、7月の防除が重要です。
- 裾なり、内なりの果実での発生に注意しましょう。

【巡回調査データ】

ミカンサビダニ 発生地点率（県全域）



ミカンサビダニ 寄生果率（県全域）

灰白色の象皮状被害
(前期被害)虫体 (体長
0.16mm程度、肉
眼では見えません)

(広島地方気象台7月9日発表、7月11日から8月10日までの天候の見通し)

- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
- 向こう1か月の平均気温は高い確率が60%、降水量は平年並または少ない確率ともに40%、日照時間は平年並または多い確率ともに40%の見込みです(図1)。
- 週別の気温は、1週目は高い確率80%、2週目は高い確率50%、3～4週目は高い確率40%です(図2)。

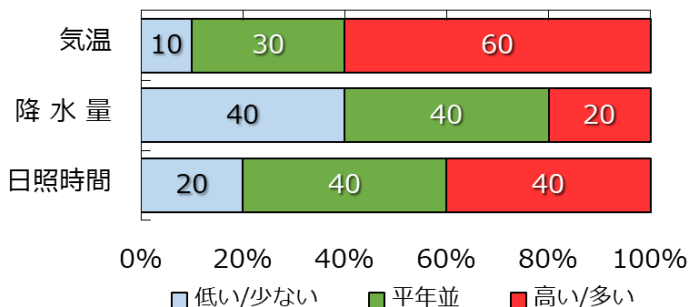


図1 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率(%)

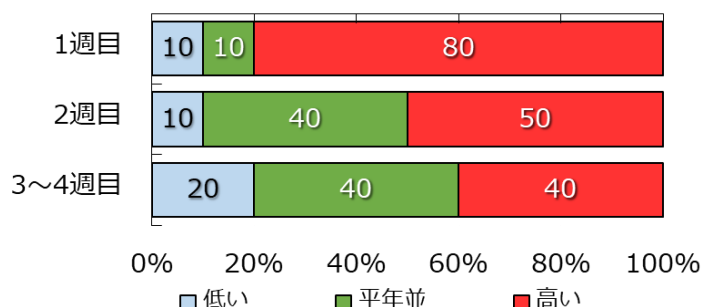


図2 向こう1か月の気温経過の各階級の確率(%)

農薬危害防止運動について

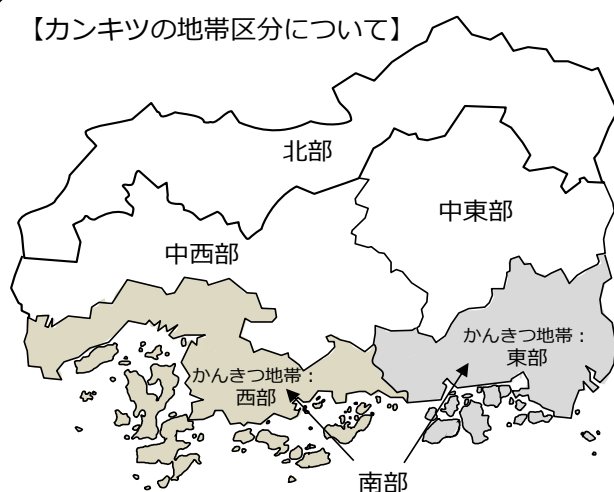
- 広島県では、農薬による危害の未然防止を図るため、6月1日から8月31日までの3ヶ月間を農薬危害防止の重点期間と定め、農薬販売者及び農薬使用者に対する関係法令等の周知や農薬の適正販売、適正使用及び保管管理のさらなる周知・徹底を図ることとしています。
- 令和8年度の農薬危害防止講習会は、全日程を終了しました。多数のご参加ありがとうございました。なお、8月31日までオンデマンド配信を行っております(申込締切：8月26日(水))。下記リンクを参照してください。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/84/1305610235740.html>

[農薬危害防止運動の実施について | 広島県](#)

用語説明について

【カンキツの地帯区分について】



西部：竹原市以西の沿岸島しょ部

東部：三原市以東の沿岸島しょ部

【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

- 「多」：1番目(最多年)と同程度以上
- 「やや多」：2～3番目と同程度
- 「並」：4～7番目と同程度
- 「やや少」：8～9番目と同程度
- 「少」：10番目(最少年)と同程度以下